

豊橋市ごみ減量の推進に関する  
提言(中間報告)

平成24年7月

豊橋市ごみ減量推進検討委員会

## 目 次

はじめに	1
I. レジ袋の有料化について	2
1. レジ袋に関する豊橋市の現状	2
2. 愛知県内でレジ袋の有料化協定を締結している市町村	2
3. レジ袋の有料化に対する考え方	2
4. 委員会の結論	2
II. ビンカンボックスによるびん・カン回収（有価物の持ち去り被害への対策）について	3
1. ビンカンボックスによるびん・カン回収（有価物の持ち去り被害への対策）の現状	3
2. ビンカンボックスによるびん・カン回収（有価物の持ち去り被害への対策）に対する考え方	3
3. 委員会の結論	4
III. 資源ごみ（古紙、小型家電等）のステーション収集について	4
1. 資源ごみ（古紙、小型家電等）のステーション収集に関する現状	4
2. 資源ごみ（古紙、小型家電等）のステーション収集に対する考え方	4
3. 委員会の結論	4
IV. まとめ	5

## はじめに

豊橋市ごみ減量推進検討委員会は豊橋市のごみ減量やリサイクル施策等について、様々な視点から検討するため、平成23年7月に設置されました。

豊橋市では、ごみの減量とリサイクルに努めてきましたが、市民1人1日当たりの家庭ごみ排出量やリサイクル率は、類似都市平均と比べ、よい水準にあるとは言えません。また、ごみ処理施設や最終処分場の延命化が課題となっており、従来のごみ減量やリサイクル施策に積極的に取り組むことに加え、新たな観点から効果的な施策を検討しなければなりません。

委員会では、平成23、24年度の2か年をかけて、ごみ減量やリサイクル施策に対する検討を行い、平成24年度末に市へ提言をする予定です。検討事項は(1)レジ袋の有料化、(2)ビンカンボックスによるびん・カン回収について(有価物の持ち去り被害への対策)、(3)資源ごみ(古紙、小型家電等)のステーション収集について、(4)家庭ごみの有料化、(5)事業系廃棄物の減量・資源化の促進の5項目です。

委員会では、これまで5回の会議を開催し、方向性を見出せた議題については、早期の実施が望まれるため、中間報告をまとめました。

豊橋市ごみ減量推進検討委員会  
委員長 笠倉 忠夫

## 1. レジ袋の有料化について

### 1. レジ袋に関する豊橋市の現状

現在、多くの自治体でCO<sub>2</sub>削減や省資源を目的に、レジ袋の有料化に取り組んでいます。愛知県内においても、ほとんどの市町村が取り組んでいる中、豊橋市はレジ袋有料化に取り組んでいません。これは、レジ袋の再使用・有効活用という観点から、レジ袋をごみ出し袋として利用できるとしていることが大きく影響しています。その結果、レジ袋はただでもらえて便利なものという意識が市民に浸透しています。

しかし、現状では、市内で1年間に排出される家庭ごみのうち、およそ4,900万枚、640トン、割合にして全体の約8割のレジ袋が再使用されず「ごみ」として排出されています。

### 2. 愛知県内でレジ袋有料化協定を締結している市町村

54市町村のうち46市町村、割合にして85.2%の市町村がレジ袋有料化協定を締結しており、レジ袋は無駄なものというイメージが定着しているようです。協定未締結の8市町村のうち、市は豊橋市を含めて2市のみであり、レジ袋有料化に関し、豊橋市の出遅れ感は否定できない状況にあります。

### 3. レジ袋の有料化に対する考え方

豊橋市ではレジ袋を無料でもらえるのが当たり前になっており、普段からレジ袋に特別の意識を持つことはありません。その一方で、他の市町村へ買物に行く時はマイバッグを持ち歩くという意見もあり、周辺自治体ではレジ袋は有料であるという認識は持っています。

また、小売業者においては、市内一斉に足並みをそろえてレジ袋を有料化することが望まれるため、市が中心となって先導することが期待されます。

さらに、レジ袋有料化によりレジ袋辞退率が約9割になったとする名古屋市の実績を適用すると、豊橋市では年間で約5,700万枚のレジ袋が削減され、およそ700世帯分の年間のCO<sub>2</sub>排出量の削減効果が期待できます。

### 4. 委員会の結論

豊橋市ではレジ袋をごみ袋として有効活用する一方で、ごみとして無駄に捨てられているレジ袋が相当量あるのも事実です。レジ袋を有料化した自治体で

のレジ袋辞退率がおおむね9割にも及ぶことから、レジ袋有料化により一定のごみ量や二酸化炭素排出量の削減効果を期待します。

また、レジ袋有料化が県内自治体のほとんどに有効な施策のひとつとして定着していますので、豊橋市においても早期に取り組むことを望みます。

## Ⅱ. ビンカンボックスによるびん・カン回収（有価物の持ち去り被害への対策）について

### 1. ビンカンボックスによるびん・カン回収（有価物の持ち去り被害への対策）の現状

豊橋市では平成3年度から、家庭で不用になったびんやカンの専用回収容器「ビンカンボックス」を市内全域に約2,200基設置し、年間約5千トンのびん・カンを回収しています。

ビンカンボックスは市民にとって非常に便利なごみの排出手段となっていますが、アルミ缶等の有価物の持ち去り被害が目立っています。年間でアルミ缶60トン、約390万円の損失と推計されます。有価物の持ち去り行為は、資源ごみの適正なりサイクルの障害となります。その他に、周辺環境への悪影響や、近隣住民と持ち去り行為者とのトラブル、市の有価物売却収益の低下など様々な問題があります。

### 2. ビンカンボックスによるびん・カン回収（有価物の持ち去り被害への対策）に対する考え方

ビンカンボックスは豊橋市独自の回収方式で、アンケートでも便利であるという声が84%に上り、多くの市民に支持されています。一方で、非常に便利な排出場所であるために、持ち去りも容易にできてしまうという問題を抱えています。これに対しては、維持管理しやすいようにビンカンボックスの設置数を適正化することや、持ち去り行為への指導・監視を強化することが考えられます。また、買取業者が持ち去り行為者から有価物を買取らなければ、持ち去り行為がなくなることも考えられます。

現状では、持ち去り行為に対する規制はなく、持ち去り行為を目撃しても声をかけづらいという実態があります。これに対しては、地域や市民が通報しやすい環境を整えるために、条例で持ち去り行為に規制を設けることが考えられます。

### 3. 委員会の結論

ピンカンボックスを維持管理していくためには、設置数の適正化を図り、持ち去り行為の指導・監視を強化することを望みます。また、地域資源回収の促進や有価物買取業者に持ち去り行為者からの買い取りをしないように協力依頼することにより、持ち去り行為が減少することを期待します。

これらの対策を施したうえで、最終的には、条例による資源物の持ち去り行為の規制について検討することも有効だと考えます。

## Ⅲ. 資源ごみ（古紙、小型家電等）のステーション収集について

### 1. 資源ごみ（古紙、小型家電等）のステーション収集に関する現状

現在、豊橋市ではプラスチック製容器包装やペットボトル・布類については主にごみステーションによる行政収集を、古紙については自治会等で実施される地域資源回収によりリサイクルに取り組んでいます。しかし、特に古紙については「もやすごみ」への混入が目立っており、再利用できるものがごみとして処分されている例が見受けられます。

また、国では、レアメタル回収を目的とした小型家電等のリサイクルシステムを整備する動きが見られます。豊橋市では、小型家電等を資源ごみとして分別収集していませんが、こわすごみから金属を収集し、リサイクルしています。

### 2. 資源ごみ（古紙、小型家電等）のステーション収集に対する考え方

市民アンケートによると古紙の処分方法として70%の人が地域資源回収を利用しており、地域の貴重な収入源にもなっているので、更に制度を充実してほしいという意見があります。しかし、地域資源回収は実施頻度など地域により取り組みに差があるのも実情です。古紙は保管スペースを多く要するため、定期的に排出し難い家庭に対する受け皿としてステーション収集を設けることは有効だと考えられます。

また、その他の資源ごみとしては、レアメタル等の回収について国での動きが見られるため、回収方法について検討していく必要があります。

### 3. 委員会の結論

地域資源回収は自治会等の貴重な収入源となっており、また、更なるリサイク

ルの推進のため、対象品目や奨励金のあり方を再検討することを望みます。その一方で、古紙を定期的に排出し難い家庭のためにステーション収集を設けることがリサイクル率向上のために効果的だと考えます。

また、国のリサイクルシステムの整備状況を見据えながら、レアメタルが含まれる小型家電等の回収方法について検討していくことを望みます。

#### IV. まとめ

豊橋市ごみ減量推進検討委員会は以下の事項について、早期に取り組むべきこととして中間報告します。

- (1) レジ袋の有料化の実施
- (2) ビンカンボックスの回収方法を維持するための設置数の適正化、持ち去り行為の指導・監視の強化、びん・カン等の地域資源回収の促進、買取業者への協力依頼、条例による持ち去り行為の規制の検討
- (3) 古紙等の地域資源回収の充実、古紙のステーション収集の検討、小型家電等の収集方法の検討